

会員増強部門

クラブ拡大・会員増強委員会



委員長

今 春淑

(十和田八甲RC)

新型コロナウイルス感染の影響でクラブの例会の開催が行われないのが現状と思います。田中年度クラブ拡大・会員増強委員長を仰せつかりました。今春淑（十和田八甲RC）です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2022-23年度、RI会長のテーマ「IMAGINE ROTARY」のもと、職業奉仕、社会奉仕の理念を行動し「親睦、高潔性、多様性」ロータリアンがリーダーシップを強化する機会作り、活動してまいります。

田中常浩ガバナーの2022-23年度地区スローガン「ロータリアンの想いを繋ぐ」地区目標として9項目を掲げております。

- ①退会防止と会員増強（会員基盤の15%を女性会員）（後継者、配偶者会員の推進）
- ②新クラブ結成（衛星クラブ1・ローターアクトクラブ1）

私達2830地区、2025年度までに「会員1200人」会員数になってないと、存続出来なくなり、合併になります。地区として存続できる最低ラインがあります。

何としても、新クラブの結成、会員増強（退会防止）が必要です。それによってクラブの財政や奉仕活動推進のために大きなプラスになり、奉仕活動上、プロジェクトの数や規模にとって有利となり、会員増強によって奉仕の理念、クラブ活性化（老・壮・青）のバランスを保ち推進できます。会員増強の為に、ガバナー公式訪問で会長は「再びミラクル1200実現」ひとりが一人に声掛け活動の継続を呼び掛けて頂き、ガバナー補佐6人の方、各グループの会長、幹事、クラブ増強委員長をガバナー補佐指導の基と、熱く伝えて増強活動への賛同を得て頂きたい。

クラブ拡大・増強委員会の目的は、会員基盤の増強と新クラブ（ローターアクトクラブを含む）結成と支援に繋がる戦略策定を特定・推進させることである。

責務として、クラブ会員増強委員長が入会促進と現会員の参加促進という実行できるよう支援する。

新クラブや異なる種類のクラブ結成を支援し、委員長は3年任期で、委員の中から継ぎの委員長を選出する事。

委員会として1年間のプログラムを計画いたしましたが、新型コロナウイルスの影響で計画倒れになり残念です。

2022-23年度 セミナー・会議の予定

- 5月 女性会員の集い
- 6月 クラブ拡大・会員増強委員会
- 7月 地区会員増強セミナー
- 11月 地区会員増強セミナー

最後に、クラブ拡大・会員増強委員会は各クラブとの増強活動の様子と、その成果を増強には至らないクラブの抱える問題を知人の会員から聞き取りをし、クラブの生の現状を知り地区の拡大増強の継続へと繋げて行きます。

現状を踏まえ、ご意見等お聞かせ頂きたく、今後とも会員皆様からのご協力の程お願いします。

公共イメージ向上部門

公共イメージ向上委員会



委員長

上野 実穂

(八戸中央RC)

ロータリーの公共イメージを向上させることにより、ロータリーとはどのような組織なのか、どのような活動をしてどのような人達がいるのかを地域・社会に広め良いイメージを持ってもらう活動です。また、会員にも様々な活動を知ってもらい、意識・意欲を高め実際に活動に参加してもらうことでクラブの活性化が図れます。そして周りの友人・知人にロータリーについて語り、何度でも入会を強く勧めていただくようお願いします。

具体的行動として

1. 各クラブの活動CMを放映します。7月～9月末まで民放3局で81本。
2. 地元マスメディアに協力依頼。ポリオデー、地区大会、クラブ周年行事等。Facebook、インスタ等SNSの活用を増やす。普段の例会等40クラブ全ての投稿に期待。
3. マイロータリーの登録率を高める。登録率の低いクラブを応援する。

社会奉仕・職業奉仕部門

地区社会奉仕・職業奉仕委員会



委員長
三上 貴生
(弘前RC)

今年度の活動として、各クラブに対して社会奉仕・職業奉仕調査を実施します。クラブの中にはすでに社会奉仕・職業奉仕をしているというクラブがたくさんあると思います。永年続けているというクラブもあります。それらをまとめ地区として把握することが必要であり今後の活動の基を作る調査であります。近年社会奉仕・職業奉仕は新しい基準のもとに次の段階に取り組むことが今後のロータリーに求められております。ロータリーの現況の課題でもあります会員増強・退会防止にもつながるこれからの新しい社会奉仕・職業奉仕に取り組みたいです。また、地区として、社会、職業奉仕大賞を設けて頂き地区大会において報賞するという制度を作って頂きたいと言うことを田中ガバナーをお願いをしたいと思います。

もうひとつの活動として、鈴木パストガバナー年度から実施している青森大学「じょっぱり経済学」が4月より開講されます。これまで数多くのロータリアンの皆さんの協力のもと実施されてまいりました。今年度も無事講師選定も終了して開講を待つばかりとなりました。「じょっぱり経済学」は4月から7月の毎週水曜日青森大学において14:40分から16:10分までの90分講義を行なっております。これは、学生は元より、一般市民、ロータリアンの皆さんにも解放されております。我々ロータリアンの社会奉仕・職業奉仕の一環としての役割も担っています。ロータリーの情報発信としても有意義な取り組みですし、青森ケーブルテレビの協力によるテレビ放映もあります。ロータリアンの皆さんにも気軽に講義を見て頂きたい特別な受講申し込みなどありませんので気軽においでくださいればクラブでの出席扱いにもなりますので足を運んで頂ければと思います。「じょっぱり経済学」についての詳細はガバナー月信にも掲載しますのでよろしくお願い致します。

国際奉仕部門

国際奉仕委員会



委員長
白山 春男
(十和田東RC)

国際奉仕委員会では、外国におけるポリオワクチン接種が、渡航自粛により実現していませんが、新型コロナウイルス収束のおりにはインドへ渡航したいと思います。その折には地区から多数の参加をお願い致します。

また、10月24日は世界ポリオデーであります。これはポリオ根絶の大切さについて認識を高める活動を実現したいと思います。その一環としてポリオポスターを委員会で制作しますので、地区内クラブロータリアンの所有する建物などに掲示して頂きたいお願い致します。

最後に各委員会、地区内クラブにおける活動に協力出来る部分があれば協力していきたいと思えます。

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員会



委員長
佐藤 健一
(青森RC)

活動方針

- ①各クラブにおいて財団の役割、必要性の理解を増進し、寄金実績を上げる
- ②全てのクラブにおいて地区補助金の活用を推進する
- ③地区又はクラブにおいてグローバル補助金による事業を実施する

具体的行動

- ①地区補助金・グローバル補助金による既活動記録から映像を作成し、PRに活用する
- ②クラブ訪問等を通じて、補助金事業実施と寄金推進のPRを図る

- ③各クラブ担当者に対する財団セミナー、補助金管理セミナーを開催する
(7月下旬、11月下旬頃)
- ④実施事業に関するメディア、SNSの活用を促進する

小委員会活動

- ①地区補助金委員会
- ②グローバル補助金委員会
- ③資金推進委員会
- ④平和フェローシップ・奨学金・学友委員会
- ⑤ポリオ対策委員会

ロータリー財団部門

地区補助金委員会



委員長
小田 桐隆夫
(むつRC)

地区補助金を活用して36RCが「社会奉仕」に取り組んでいます。

今年度は、全40クラブからの補助金申請が提出されることを望んでいます。

また「公共イメージ」の向上にも繋がる事なので各クラブの申請をお待ちしています。

- 7月 財団セミナー（前年度のプロジェクトを報告）。
- 8月 決定後地区補助金を各RCへ振り込み予定。
- 12月 財団セミナー（次年度地区補助金の要件）。
- 3月 次年度地区補助金の申請締切り（地区事務所へ）。
- 5月 次年度（申請プロジェクト審査）補助金決定。

ロータリー財団部門

グローバル補助金委員会



委員長
川崎 益美
(八戸北RC)

2012-13年度から始まりました、タイのRI3330地

区との「水と衛生の事業」ですが、今年が10年目の節目の年度となります。

これまで、タイのあまり衛生的によくはない地区の学校等に浄水器の設置をしてまいりました。コロナの流行がパンデミックになりました過去2年間は、相手地区の要望で主に病院等への医療支援をしてまいりました。

1. 外科手術室設備改良事業

・完成式典 2021年6月28日

当地区負担 12,000ドル

- 内容
- ①手術室用浄水器の設置
 - ②手術室用空気清浄・排気システムの整備
 - ③手術室ライトの整備
 - ④手術室自動ドアの設置

2. 医療器具支援事業（脳卒中リハビリ対応プロジェクト）

・寄贈式典 2021年9月23日

当地区負担12,000ドル

- 内容
- ①電磁波治療機器 1台
 - ②超音波治療機器 2台
 - ③脳卒中リハビリケアに対処できる人材育成プログラム

3. 医療器具支援事業（コロナ患者支援対策）

・寄贈式典 2021年11月9日

当地区負担 15,000ドル

- 内容
- ①人口呼吸器
 - ②心電バイタルモニター（患者監視装置）

今年度支援した事業は、上記の内容でした。当地区はガバナーはじめ財団関係者がZOOMで寄贈式に参加いたしました。しかしながら、オンラインと通訳を介しているために当地区としては、思うような成果が感じられませんでした。

この反省に立ち今年度は、政府の渡航制限解除が前提となりますが、現地へ赴きリアルでグローバル補助金事業の成果を確認し、そして取材をして、地区のロータリアンの皆様や地域社会にPR活動をして、事業の成果と意義の認識を高めてまいります。

また、新規のグローバル補助金事業の問い合わせがありましたら、積極的に取り組んでまいります。一年間宜しくお願いいたします。

ロータリー財団部門

資金推進委員会



委員長
小林 俊一
(青森RC)

- 1、前年同様寄付ゼロクラブが無いよう取り組んで参ります
ロータリー活動の原点、原資が各寄金となっております、今年度も会員皆様のご理解とご協力をお願いします
- 2、各種管理はMYロータリー登録が必須となっておりますが、クラブセントラルでの入力をした管理を推進し、より現況が分かりやすくなるよう取り組んでまいります
- 3、ロータリーカード推進：昨今はタッチレス決済の普及加速を肌で感じております
決済ツールとしては劣勢気味ではありますが、会員皆様のホルダー推進とご利用拡大へご理解と協力をお願いしてまいります
- 4、田中年度は会員お一人当たりの年間目標が以下となっております
 - 年次基金 150ドル
 - ポリオプラス 30ドル
 - 国際平和資金 1500円

ロータリー財団部門

平和フェロシップ・奨学金・学友委員会



委員長
工藤 真人
(青森RC)

この委員会で扱う奨学金は、平和フェロシップ、グローバル補助金、地区補助金の3種類です。

平和フェロシップについては、毎年、ロータリー平和センター提携大学で学ぶ最高130名のフェロシップ（全額支給の奨学金）が授与されます。留学先大学院が国内外6大学に限定されるなど条件も厳しい奨学制度です。

グローバル補助金奨学金は、4年制大学を修了した方（または見込みの方）を対象に、ロータリーの重点分野（平和構築と紛争予防・疾病予防と治療・水と衛生・母子の健康・基本的教育と識字率向上・地域社会の経済発展）で活動する未来のリーダーを育成するためのものです。海外に留学を希望する、4年制大学を2年以上修了した方（または見込みの方）を対象に、ロータリー財団の奨学金を提供し、支援しています。

地区補助金奨学金は、高校3年生卒業予定者を募集して、大学へ入った際に奨学金を支給する制度です。

平和フェロシップ奨学生、グローバル補助金奨学生、地区補助金奨学生とも今年度も募集いたします。

また、学友の掘り起こしを行い、学友の活躍などを紹介出来たらと考えています。

会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。

ロータリー財団部門

ポリオプラス対策委員会



委員長
森内 忠良
(青森RC)

新型コロナウイルスの感染が止まらないなか、ウクライナ紛争も始まっている。また、ポリオウイルスについても野生株保有ウイルスによる感染が続いているのが、アフガニスタン、パキスタンの二カ国であるが、残念なことにマラウイでも関連株が検出された。

混沌とした政治情勢の中で残る0.1%のポリオとの闘いが最も困難であると言われている。紛争、文化的障壁、公的インフラの不足といった要因がロータリー予防接種活動の妨げ以外の何者でもない。

今年度は、2830地区のポリオワクチン投与活動の重鎮である、ドクター関場慶博パストガバナーをはじめ、ドクター鈴木唯司パストガバナー、ドクター土橋伸行委員、ドクター成田俊介委員の他、専門知識のあるドクターの方々とともに、ポリオ感染対策の認識の重要性を高めるレクチャー開催を計画している。

また、新型コロナウイルス感染状況を考慮・判断しながら世界ポリオデー（10月24日）に向けて各地

区グループとのイベントを開催。メディア（TV、SNS等）を利用した活動意義の周知などを行うことで、公共イメージもはかっていきたい。

成田ガバナーがつかないで来たインドのポリオワクチン投与活動の継続を他地区と連携して、田中ガバナー（2022-23年度）と行っていきたいと思う。しかし、前述のとおり不安定な国際情勢が続き、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、行動を制限される現状にある。

感染症の恐ろしさを身をもって感じている今、自分たちにできることを熟考することもポリオ対策の課題とも言えよう。

青少年奉仕部門

青少年交換留学委員会



委員長

岡山 信広

(六ヶ所RC)

田中ガバナーから拝命し、2022-23年度から青少年交換委員長を務めさせていただきます六ヶ所RCの岡山です。私は地区委員長も交換留学委員会も初めての事ですので、可能な限り2021-22年度に準備し、2022-23年度内は細川勝也前委員長の助力と委員皆さんの協力を頂戴しながら奉仕したいと考えております。

ロータリー青少年交流の主な目的は、『海外文化交流の機会、および平和と社会正義を推進するリーダーとして成長する機会を青少年に提供する』ことです。青森県内の15~19歳の学生がこのプログラムを活用して素晴らしい国際人・社会人になることを期待して奉仕したいと考えております。つきましては2830地区ロータリアンの皆様におかれましてはプログラムの趣旨をご理解頂き、派遣学生やホストファミリーのご紹介についてご協力を賜ればと存じます。

加えて、当プログラムは日本国外のクラブとのやり取りが発生するため、言葉と文化の壁という『心のハードル』が伴い、他の委員会同様に活動には負担を伴いますが、当委員会は2830地区のロータリアンであれば誰でも気軽に楽しく奉仕できる、持続可能な仕組みにも取り組みたいと考えております。

以下の1から9までが年度内における活動の概要

と考えております。

1. 活動を通じての委員会メンバーの友情の醸成
2. 青森県内におけるポスター・ビラ・口コミなどによる派遣学生の募集
3. 書類審査、面接による派遣学生の適正確認
4. 派遣学生と保護者に対する送り出し教育の実施
5. プログラム実施期間中の派遣学生とその家族のケア
6. 来日学生を派遣する他地区とのマッチングとプログラム実施前の調整
7. 来日学生を受け入れて頂くホストファミリーの募集と契約
8. プログラム実施期間中の来日学生とその家族、ホストファミリーのケア
9. 以上に付随するすべての活動

2022-23年度は派遣候補学生が2名いらっしゃいます。

1人目の希望派遣先はアメリカ合衆国です。派遣先の地区委員長から頂戴したメールには新型コロナウイルス感染症に関して楽観的なコメントがありました。合衆国内での感染者数が減少している事が理由と想像します。当地区からの派遣候補学生は2022年4月からは高校3年生のため、是非に交換留学を実現したいと考えております。

2人目の希望派遣先オーストラリアです。希望派遣先との具体的な交渉はできていない状況にあります。オーストラリアも新型コロナが減少しているようですので、日本の状況が落ち着き次第に遅滞なく交渉を開始したいと考えております。この派遣候補学生は2022年4月からは高校2年生に進級し次年度派遣も可能であるため無理をせず確実に実現したいと考えております。

2023-24年度の派遣候補学生が不在のため、本年5月14日の地区研修・協議会の参加者に対して募集要項を配布の上、細川委員長からも口頭で募集の声掛けをさせていただきます。今回の募集については締切日を9月30日、選考試験を10月10日に予定しております。

青少年奉仕部門

インターアクト委員会



委員長
松山 隆志
(野辺地RC)

地区委員会の活動と致しましては

①各インターアクトクラブの活動内容の報告及びインターアクターの交流の場である「年次大会」の実施 ②インターアクターを海外へ派遣しホームステイを経験、各自のスキルアップをはかる「アクトの翼事業」の実施 ③インターアクターの卒業に当たり在学中の功績を顕彰する「ガバナー賞」授与の3つと、日々の各クラブの活動を支援するということがあります。

年次大会については、大人数での「会合」開催がまだまだ難しい現在、その実施方法も含め実現に向けて検討していきたいと思えます。

アクトの翼事業の実施については、インターアクターの皆さんにとって非常に有意義な事業であることから、田中ガバナー（エレクト）の地区目標のひとつにもあげられております。関係各所との綿密な調整により、実現に向けて鋭意努力したいと思えます。

第2830地区には、20のインターアクトクラブがあり、それぞれの地域においてお世話頂いている提唱クラブの皆様とともにボランティア活動を展開しております。昨今の状況といたしましては「コロナ禍」の影響により対外的な活動は出来ないながらもそれぞれ工夫をこらしながら積極的に活動を続けているクラブが多いと報告を受けております。地区委員会と致しましては、このような活動をより効果的に実行して頂けるよう各お世話クラブ様に積極的な関与をお願いするとともに、共に活動できる場を創出頂くよう働きかけたいと思えます。

いずれにいたしましても各ロータリアンの皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

青少年奉仕部門

ローターアクト委員会



委員長
柴田 文彦
(むつ中央RC)

当地区内の5クラブ（青森RAC 五所川原RAC 弘前RAC 八戸RAC むつRAC）は、ここ2、3年衰退の一途をたどったのは否めません。昨年度青森大学RACが誕生し、6クラブとなり新たな決意の基に活性化を目指します。

先に述べたような現在の状況下でR Iからの”独立したクラブとして認めること””人頭分担金を払うこと”はできません。

衰退をたどったのは、パンデミックによる弊害と30歳までの年齢制限によるところだと思われれます。本来であれば世界中に友人をつくりながら、社会でおきている様々な課題にとりくむ18歳以上の意欲あるクラブのはずです。

活性化する手筈として、30歳の年齢制限を撤廃することで会員数を維持することと、ウイズコロナとしてコロナ下でも可能な活動を促します。

ローターアクト委員会としては、下記の通り活動計画します。

1. 地区RAC年次大会の開催
2. 地区委員会の開催
3. 各RACの例会へ地区委員又は委員長のメイキャップ参加

青少年奉仕部門

RYLA委員会



委員長
三浦 基
(青森RC)

2023年6月3日（土）・4日（日）に一泊二日の日程でRYLAプログラムを行います。ユースを集められる講師を委員会で検討し、とにもかくにも多くのユースを参集し、ロータリークラブを体験していただき、RYLAからロータリークラブに興味をもって

いただけるプログラムを実行し若手リーダーの育成をします。

実施予定場所：青森市

米山奨学委員会

米山奨学委員会



委員長

三浦 順子

(弘前アップルRC)

1. 当会への理解や奨学生との交流の場としてできるだけ多くのクラブで卓話をさせていただきたく各クラブの例会スケジュールの調整をお願いします。
2. クラブ例会や地区の行事に参加するし奨学生がロータリー活動への理解を深めてもらいたくスポンサークラブ以外のクラブにもお声をかけていただきたくお願いします。
3. 地区目標の寄付については普通寄付3,000円以上、特別寄付1万円以上をなにとぞよろしくお願いします。まだ寄付ゼロクラブがないようお取り計らいをお願いします。
4. スケジュール
 - 9月17日(土) 米山の集い
 - 10月2日(日) 米山奨学生地区大会出席
 - 12月3日(土) 次年度のための新米山生面接選考試験
 - 3月5日(日) 修了証書授与式
 - 4月9日(日) 新奨学生とカウンセラーオリエンテーション
 - 5月27日(土) 卓話講習会

ロータリー・リーダーシップ研究会

RLI委員会



委員長

米谷 恵司

(青森モーニングRC)

RLI委員会委員長を4年連続で拝命致します青森モーニングロータリークラブ所属の米谷恵司です。

RLI (Rotary Leadership Institute) はロータリーリーダーシップ研究会の略語で、1992年アメリカ、ニュージャージー州の元RI理事デビット・リンネット氏の発案で始められました。そして現在は全世界110ヶ国、約300近い地区にロータリーの研究、研修組織として発展しております。また、我が地区はRLIの先進地区となっており、黒田パストガバナーはRLI日本支部特別顧問として、また山崎パストガバナーはRLI日本支部ファシリテーター委員会副委員長、源新パストガバナーはRLI地区代表ファシリテーターとしてご活躍されており、沢山のご指導をいただいております。

RLIの研修は予め決められたテーマのもと皆様で自由に意見を出し合うスタイルで行われます。そしてディスカッションリーダー (DL) は進行役として質問を投げかけながら参加者の自発的な考えや意見を引き出していきます。参加者は解答を求めめるのではなく、テーマに対する参加者の発言を聞き、自分自身の解答や方向性を見出す研修になっています。この手法はロータリークラブの将来展望を考えるにあたり、クラブを牽引するリーダーの育成、そしてクラブの継続性、刷新性、活性化を図るうえで最も重要な事だと考えます。その為にはロータリアン各自のスキルアップが必要不可欠です。それを実現する為是非ともRLIを活用して頂きたいと考えております。

今年度は3月19日、20日PETSでのRLI手法の研修を検証するとともに、具体的に以下の事業を実施したいと考えております。

1. RLIの開催 (1泊2日の集中研修)
2. コロナ禍でも出来るRLIを目指し、ZOOM、ハイブリッド等の研修方法の模索
3. ディスカッションリーダーバンクの設置 (地区のバランスを考慮し各グループに同人数選定)
4. ディスカッションリーダーの資質向上、レベルアップを目指し年数回の研修会の開催
5. ディスカッションリーダー認定基準の策定
6. グループ毎にRLI出張講座の開催

RLI委員会は皆様クラブの益々の発展、活性化の為、精一杯お手伝いする所存でございますので、多数の参加を宜しくお願い申し上げます。